

# あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第65号

2024年7月15日発行

👉食べてはいけない?! 身近な植物👉

種類や摂取量によっては重大な事故となる場合もあります。

①



## ①イヌサフラン

多年生の球根植物。球根は径3～5cmの卵形で、9月から10月に花茎を15cmほど伸ばし花をつける。

誤食部分：球根（玉ねぎ、ジャガイモと類似）

症状：球根をゆでて食べ、腹痛や嘔吐など食中毒の症状を訴えた。

②



## ②ジキタリス

園芸種として、草姿や花の形に独特な魅力があり、花は釣鐘。全草に毒を有する。

症状：不整脈や動悸などの循環器症状、嘔気・嘔吐などの消化器症状、頭痛・眩暈などの神経症状、黄視症などが挙げられる。

③



## ③フクジュソウ

山地に自生する多年草で、早春に新芽を出し、鮮黄色の花をつける。多くの園芸種があります。

誤食部分：全草、新芽をフキノトウと間違える。

症状：嘔吐、呼吸困難、心臓麻痺など。

・保存しておいた観葉植物のタネを誤って調理し、食中毒を発症したケースもあるようです。調理時に触る場所に置かないなど、日ごろから保管場所に注意しましょう。

・誤食事故を防ぐために・・・

「食べられる植物の近くに、有毒植物やよく似た植物を植えない」

「食用だと確実に判断できないものは、採らない・食べない・売らない・人にあげないことを心がけましょう」

# 1. 第 20 回定期総会について

総務部会長 小松信彦

令和 6 年 5 月 25 日、当推進協議会の第 21 回定期総会が、あびこ市民プラザ・ホールで開催されました。総会に先立ち、本年 2/1 に千葉市で開催された「ちば食育推進大会」に出席された元農政課西田集様による「我孫子市学校給食への地産地消の取組みについて―事例発表を終えて」と題する講演会を開催しました。我孫子市と当協議会が実施している市内小中学校への給食食材搬送ボランティア活動は千葉県内でも珍しいケースとして認識されたことから、本件の講演となったものです。



総会では当日の会員出席者と委任状の提出者の合計 89 名にて会則により成立しました。開会宣言後、会則により議長を指名し議事に入りました。来賓の紹介に続き来賓の代表として、渡辺副市長が協議会の活動について、「援農ボランティア活動」「学校給食野菜搬送活動」などに謝辞を述べられました。

議案として、第 1 号議案令和 5 年度活動報告、第 2 号議案令和 5 年度収支決算報告、第 3 号議案令和 6 年度活動計画、第 4 号議案令和 6 年収支予算案、第 5 号議案令和 6 年度新役員の選出について、審議いただきました。質問が複数出ましたが、事務局にて回答、検討することにしました。各議案の審議後、すべての議案は挙手多数により原案通り承認されました。その後、新役員の紹介を行い、総会は終了しました。

総会后、会員懇親会が開催され、32 名の参加を得て、我孫子産の野菜を使った(株)あびベジからの料理を味わいながら、会員紹介などを含めて相互の親睦を深めました。

## 2. 総会を終えて

会長 齊藤 徳剛

今年 5 月 25 日に当協議会第 21 回定期総会は熱心な会員の皆様の出席のもと開催されました。皆様から今期活動に対する厳しくも前向きな意見がでていました。その総会におきまして会長に選任していただきました齊藤徳剛です。これまでの活動経過を踏まえながら、上記総会で承認を得ました「令和 6 年度活動計画」に即して、当協議会の活動全般をしっかりと推進して参りたいと思います。

世界を見渡せば終わりの見えない紛争が多数起こっています。異常とは言えなくなった気象の変化などからも食糧問題は誰もが憂慮しています。協議会の活動は、小さいながらも農業振興に役立つものと自負しております。

再々度のお願いですが、エコ農産物普及推進部会の部会長が空席となっていて、解消しなければならない継続課題となっています。興味のある方は是非お力を貸していただきたいと切に思っていますので、事務局まで連絡をよろしくお願いいたします。

今後とも、会員並びに役員の皆様、市役所をはじめ多くの関係者各位と共に、当協議会の継続と社会価値向上を目指したいと思っておりますので、どうぞご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

### 3. 役員・実行委員一覧表

役職名	氏名	実行委員等		
会長	齊藤 徳剛			
副会長	若王子 範文			
副会長	大炊 三枝子			
副会長	大井 一郎	環境経済部 次長 兼 農政課長		
総務担当	長森 賢仁	農政課 地産地消係		
会計	長森 賢仁	課長補佐 斎藤 寿義	係長 景山 雄一郎	星野 翼
工口農産物普及 推進部会長	空席	今村 直美	井出 史郎	
		栗原 裕子	日暮 俊一	
食育交流部会長	須藤 一宏	香取 典男	八澤 静江	
		サポーター委員：相馬 英里		
援農ボランティア 部会長	井出 史郎	石田 善久	吉田 和子	
		(農家委員) 染谷智一郎	(農家委員) 仲原 千津子	(農家委員) 野口 忠司
学校給食支援 部会長	中村 公一	関口 敏雄 (～7月)	小林 孝夫	梶縄 茂雄
		志賀 幸夫	小嶋史樹	
	学校給食 コーディネーター	久島 幹夫	金田 幸治 (R6/7～)	
広報部会長	若王子 範文	日暮 俊一	出口 一幸	根本 奈央美
総務部会長	小松 信彦	齊藤 徳剛	吉田 和子	
会計監事	小林 明弘			
会計監事	仲原 千津子			
事務局	小松 信彦	吉田 和子		

# 4. 学校給食への地元野菜の供給についてご紹介

学校給食コーディネーター&搬送ボランティア（総会講演会より抜粋）

元農政課地産地消係 西田 集

## 1. 学校給食に関わる組織

- ・株式会社あびベジ：学校給食コーディネーターを配置し、農家と学校を繋げるパイプ役を担っています。
- ・あびこ型「地産地消」推進協議会：直売所から学校へ地元農産物を搬送する役割を担っています。
- ・農政課：あびベジ・学校給食コーディネートの委託や野菜搬送用に市の公用車の貸与を行っています。



## 2. 我孫子市の農業の基本情報と地産地消の取り組み

- ・我孫子市の農業は都市近郊農業で、少量多品目栽培（たくさん品目を少しずつ作る）が多く、100品目近く作る農家の方もいます。
- ・販売先も市場や農協への出荷メインではなく、地元の直売所やスーパーへの出荷がメインの農家さんが多いのが特徴です。
- ・この特徴が学校給食へ地元産農産物を年間を通して供給できていることにも繋がっています。
- ・学校給食のお米は全て我孫子産を使用しており、平成18年から現在まで行っています。市内で生産されるお米の量は約3850トン。そのうち、給食で使うお米は年間で約100トンです。

## 3. 給食への地元野菜供給の取り組み

「我孫子産野菜の日」

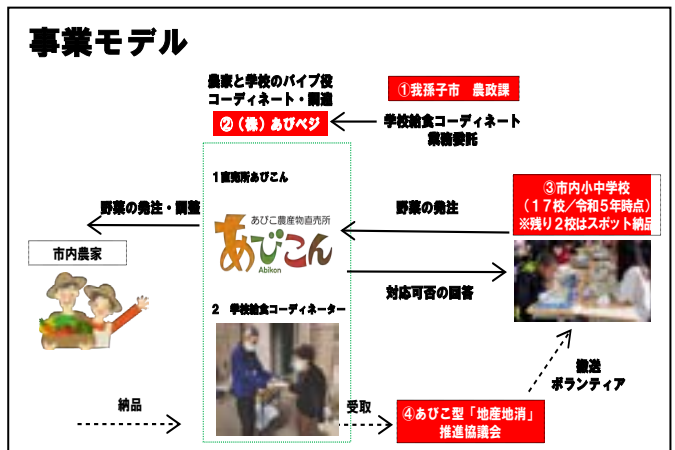
- ・月に2回我孫子市の農産物を積極的に使う「我孫子産野菜の日」を学校ごとに設定しており、昨年は年間12.2トンの我孫子市産の野菜が給食に使用されました。
- ・我孫子市では、栄養士を市内の全学校に配置し、全校自校式で給食を供給しています。栄養士がそれぞれの学校にいて、学校独自の献立作りができます。
- ※全野菜量：222,944kg 我孫子産野菜：12,196.5kg、約5.5%が我孫子産野菜
- ※令和4年度の実績：全体で165回の搬送（うちスポットが93回）搬送量9329.6kg

「我孫子産野菜を供給するために行っている工夫」

- 一つ目は、学校給食関係者による4者会議（あびベジ、地産地消、農政課、教育委員会）です。
- 二つ目は、納品拡大に向けた学校の意思確認です。
- 三つ目は、コーディネーターによる栄養士向けの情報発信です。

## 4. 今後の課題

- 一つ目に、生徒数が多い学校への対応です。
- 二つ目に、農家の高齢化です。
- 三つ目は、コーディネーター・搬送ボランティアの世代交代です。



## 5. 新しい担当者(農政課)

農政課地産地消担当：長森 賢仁

4月の人事異動により農政課地産地消係に配属となり、この度、あびこ型「地産地消」推進協議会の総務と会計担当となりました長森です。あびこ型「地産地消」推進協議会の運営にあたり、重要な役員に就いたことについて、大変光栄に思っております。併せて、私自身も地産地消の意義や重要性を学び、今後の我孫子市の農業の発展に貢献できるよう尽力してまいります。



農政課に配属時の引き継ぎの中で、地産地消の推進は、市内の農林水産業の振興に繋がることはもちろん、同時に市内の経済や人口、そして文化を豊かにすることができる、非常に大きな可能性を秘めた取り組みであり、市内の生産者と消費者が直接関係を持ち、相互に支え合い、共に発展していくような社会を目指す必要があるという話がありました。このことをしっかりと理解し、今後の業務に励みたいと考えています。

なお、私の今年度の農政課での担当業務として、地産地消推進事業のほか、環境保全型農業推進関連や農業拠点施設関連等の業務があります。我孫子市としての取り組み等や過去・現在・未来をしっかりと考え、学びながら、これらの業務にあたりたいと考えています。

今後も協議会の皆様と協力し、地産地消を推進し、我孫子市の農業振興及び発展に貢献できるよう精一杯努めてまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

## 6. 行事



### 1. 料理教室（食育推進部会）

湖北台にお店を持つシェフに今回は「フレンチ3品」をお願いしました。

日 時：令和6年3月14日（木）

場 所：湖北公民館（コホミン）

参加者：20名

### 2 情報交換会（援農ボランティア部会）

4年ぶりの「援農ボランティア部会」の情報交換会が下記の通り催されました。

当日はみぞれ交じりの小雨が降っていましたが援農ボランティアと農家さんが各テーブルに混ざり合い笑い声を交え楽しく新しい出会いがあった時間を過ごしました。

日 時：2月23日（土）午後5時～7時30分

会 場：天王台 「ばんばん亭」

参加者：23名（受入農家：7名・ボランティア・事務局：16名）

# 7. 令和5年度援農ボランティア活動状況

援農ボランティア部会 石田 善久

## ・援農ボランティア実績表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
4 年 度	援農 希望者数	168	152	165	147	115	120	131	115	153	139	143	129	1677
	農家受入 希望数	128	132	142	207	196	169	164	125	102	94	149	149	1757
	援農 割当数	113	115	115	126	94	108	113	93	97	81	121	94	1270
5 年 度	援農 希望者数	131	129	111	131	93	99	91	91	108	98	93	120	1295
	農家受入 希望数	167	157	165	179	172	158	161	157	152	143	158	168	1937
	援農 割当数	117	116	99	125	90	90	82	84	94	87	84	98	1166

## ・令和5年度の状況分析

1. 援農ボランティア希望者数は前年度比 $-23\%$ と大幅減少した。高齢化により活動日数の多い平日活動会員が減少したことや、企業の定年延長により定年退職者の新規加入の減少が原因と思われる。
2. 受入れ希望数は前年度比 $+10\%$ の増加となった。前年度まで顕著であった季節変動が少なく、月間150以上の希望となっている。露地栽培の受け入れ農家の減少。
3. 援農ボランティア割当数は前年度比援農ボランティア希望者数の大幅減少があったが、前年度比 $-8\%$ の減少にとどめることができた。

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail [info@abiko-chisan.com](mailto:info@abiko-chisan.com) HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

